

平成29年度第1回津山市総合教育会議 議事録

日 時	平成29年5月30日(木) 15:00 開会 16:30 閉会				会 場	津山市役所3F 庁議室
出席構成員	津山市長 宮地 昭範	教育長 原田 良一	教育委員 寺元 貴幸	教育委員長 森 尚美	教育委員 長江 真理子	
		教育委員 尾島 昭邦				
出席職員	事務局職員 (総合企画部)	総合企画部長		玉置 晃隆	傍聴者 2名	
		総合企画部 政策調整室長		平田 暁		
		総合企画部 政策調整室企画主幹		河野 茂夫		
	教育委員会 事務局	学校教育部長		絹田 真一		
		学校教育部次長(兼)教育総務課長		戸田 博人		
		学校教育部教育総務課主幹		仁木 良和		
		学校教育部学校教育課長		影山 哲也		
		学校教育部学校教育課 主査		松尾 英樹		
		生涯学習部長		松尾 全人		
生涯学習部 企画調整官		朝田 一				
議 事	案 件				担 当 課	
1.開 会	宮地 津山市長				( 事 務 局 )	
2.市長あいさつ						
3.議題						
4.その他	(1) 第2期学校力向上推進プランの策定について (2) ICT模擬授業について (3) 子ども若者支援地域ネットワークについて				( 事 務 局 ) ( 事 務 局 ) ( 事 務 局 )	
5.閉会						

# 平成 29 年度第 1 回(平成 29 年 5 月 30 日開催) 総合教育会議 議事録(要旨)

## 1. 開 会

### ★玉置総合企画部長

定刻がまいりましたので、只今から、平成 29 年度第 1 回津山市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、宮地市長から挨拶を申し上げます。

## 2. 市長あいさつ

### ●宮地市長

平成 29 年度の第 1 回津山市総合教育会議を開催しましたところ、ご多忙の中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。平素より皆様には、津山の次世代を担う子ども達のために、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本年 4 月から、第 2 期の津山市教育振興基本計画がスタートし、各分野において様々な事業を展開されているところであります。市民・教育機関・行政の連携・協力のもと、学力向上対策や学校施設の充実、生涯学習・スポーツ・文化施設の整備など、「つなぐ力を育む」を基本理念に、10 年先の津山を見据えながら効果的な施策に取り組んでいただいております。

本日は、学校力推進プランの方向性や、子ども若者支援地域ネットワークについての協議を行いますが、初めての試みとして ICT の模擬授業をここで受けていただくことにしておりますので、皆様には、広い視点から忌憚きたんのないご意見・ご助言をいただき、本会議を意義あるものとしてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

### ★玉置総合企画部長

ありがとうございました。次に、4 月 1 日付で教育委員にご就任されました、尾島教育委員から一言ご挨拶をいただきたいと思っております。

### ◇尾島教育委員

4 月から教育委員として活動を始めたばかりの尾島でございます。今までは教員という立場から教育に携わってまいりました。3 年ほど空白がありますが、今度は教員委員という立場から津山の教育に携えるということで、大変はりきっております。まだまだ勉強不足の面もありますが、昨日は学校訪問にもいかせていただき、これからさらに勉強をして皆様のお役にたてればと考えております。どうぞよろしくお願いをいたします。

## ★玉置総合企画部長

ありがとうございました。

ここから議題に入りますが、津山市総合教育会議設置要綱第3条に基づき、議事につきましては市長が進行することになっておりますので、よろしく願いをいたします。

### 3. 議 題 (司会 市長)

#### 【議題(1)】

#### ◆市 長

それでは、ここからは私が進行をさせていただきます。

本日は、会議終了時刻を16時30分として会議を進めてまいりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

まず、議題(1)「第2期学校力向上推進プランについて」を、事務局より説明してください。

#### ●絹田学校教育部長（第2期学校力向上推進プランの説明）

第2期学校力向上推進プランについて、資料1にもとづいて説明。

○第1期では、重点取組「学力向上」、「生徒指導・不登校支援」、「特別支援教育」を推進。

第2期でも、「第2期津山市教育振興基本計画」に基づき、個の確立とつなぐ力を育むため、4つの柱を重点取組としていきたいと考えている。

○第2期重点取組

「確かな学力の向上」、「健やかな体の育成」、「生徒指導・不登校支援の推進」、「特別支援教育の推進」の4項目を重点取組としていく。

新規⇒「健やかな体の育成」児童生徒が運動することで、楽しいと感じれることを中心として、「リズム運動」特に美作大学の津田准教授が推奨しているリズムジャンプを中心に、運動に親しむ環境づくりを進めるとともに、児童生徒の健やかな成長のために、健康教育や家庭と連携した生活習慣の確立を行なっていく。

#### ◆市 長

ただいまの説明について、協議・調整を行っていきたいと思います。

先ほど、事務局からも説明がありましたが、前回の総合教育会議にて、第2期教育振興基本計画の基本理念や教育基本目標等を、津山市の教育大綱として決めました。

その中でも、子どもたちの「個の確立」には、学校と家庭が大きな影響を与えていると認識しています。特に、大事な問題として「家庭教育」が挙げられると思います。教育の原点は家庭にあり、その重要性和保護者の責任をもっと周知すべきだと考えています。そのことを前提に、学校の先生

が、児童・生徒の指導に力を注げる環境を整えてほしいと思っています。

教育委員の皆さまはどのように思っておられるか、ご意見をいただければと思います。

#### ◇原田教育長

絹田部長から説明をしましたが、第1期に続いて第2期の「学校力向上推進プラン」の策定を本年度行なってまいりたいと考えています。

特に、学校教育で大事なものは、児童生徒の「やる気」をどのように出させるかが一番重要だと思っています。それは、家庭教育と関係していて、家庭で愛情たっぷりに育てている子は新たなことにも挑戦して目標をもって取組でいけます。津山市の子どもたちの多くは愛情たっぷりに育てていますが、その中でも親の仕事が忙しくて寂しいと感じている子もいます。学校教育の中では、家庭と連携しながら「自己肯定」を大事に応援していきたいと考えています。自分はこんな自分でいいんだ、目標をもって頑張るんだ、という自分が、仲間、家庭、学校とつながって行ってほしいと考えています。家庭や学校で愛情をもって子どもたちを育て、「自己肯定感」を養うような育て方をしていくことが大事だと思っています。

ただ、今の学校・家庭教育で足りないのは「Try&Error」。挑戦して失敗したことも認めてあげる、挑戦する前からきれいに整えて歩いていくことが多くなっている現代の中で、失敗したことを言うのではなくて挑戦したことを褒めることが次につながっていくと思います。

すべての子どもたちが挑戦ができるような、津山市の教育にしていきたいと考えています。

#### ◇寺元教育委員

学校訪問に行ってきたのですが、どこの学校もよく頑張っておられるのですが、学校・場所によって子どもたちの雰囲気はかなり違うと感じました。子どもたちが、おじいちゃんおばあちゃんとよく話をしていたり、よく褒められたりしている経験が多い場合は、学校でも問題が少なく落ち着いていますが、核家族で親が忙しくてなかなか関わりがもてず、子どもたちが寂しい思いをしている場合は、一般的に問題を起こす確率が高いのかなと感じています。これは核家族化が進んで家が小さくなっていることが原因だと思いますが、このことを踏まえながら、場所(学校)によって対応を変えないといけないと感じました。

学校においては、小学校に英語や道徳が入ってきて、いよいよ授業時間が足りなくなると感じています。今後、先生方をサポートする仕組みを作っていくと、学校の現場で子どもたちと向き合う時間がなくなるのではないかと危惧しております。

#### ◇森教育委員

自己肯定感を持たせることは非常に重要だと思っています。子どもたちは、いろんなことに挑戦

したいけど、安心して帰ることができる場所と人がいるとそれが出来ますが、どこにも誰にもそれをしてもらわなかったら帰るところがないわけですから、どうしても荒れてくるんだと思います。

家庭が一番ですが、学校でも先生・友達に何があっても見捨てないという意識をもって子どもたちに接していかないといけないと思います。先生方は本当に努力していただいています、そこをベースとしてもってほしいと思います。

#### ◇長江教育委員

学校訪問にいきましたが、それぞれの学校の特徴は地域によって異なると感じました。どこの学校でも、家庭で認められていない子どもたちは、月曜日の朝は大変なんですという声をよく聞いています。土日の家庭での過ごし方が月曜日の子どもたちの学校生活に影響していると改めて感じました。そういう意味では、学校という場でいっぱい認められることがあると、子どもたちは変わっていくと思います。

#### ◇尾島教育委員

私は、学校生活の中では、子どもたちの「やる気」をいかに起こさせるか、ということがすべてだと考えています。そのために、家庭や学校、行政などがどのように関わっていくとやる気を起こさせることができるのか。例えば、経験上、漢字を覚えることでは本人が覚えようと思わないと100回書いても覚えない。でも、覚える気になると10回書いたら覚えてしまいます。では、そのためにどのような工夫を担任がするかというと、漢字ノートをチェックする時に最後の言葉を工夫するんです。子どもは興味を持ちながら漢字を覚えるし、やる気も出てきます。

そういったことを学校現場は一生懸命考えています。「つなぐ力」ということがあります、学校でやっていることを家庭でもやり、そして広げていくことが大事だと思います。そんな難しいことではなくて、簡単な工夫で出来るのではないかと考えています。

学力状況調査などでは、児童が漢字2つを覚えるだけで平均点がかなり上がります。点数ではないのですが、子どもたちのやる気を起こさせることが、学力のアップにもつながるし、落ち着きにもなるし、自己肯定感にもつながると思いますし、津山市の教育につながっていくのではないかと感じています。

#### ◆市 長

津山市学校力向上推進プラン第2期では「健やかな体の育成」を加えているが、どのような意図がありますか。また、柱の一つにリズム運動を取り入れているが、「リズムジャンプ」には、どのような効果が見込めますか。

## ◇原田教育長

リズムジャンプについては、私が教育長になった時に美作大学の津田先生がおいでになって「自分はリズムジャンプを専門に広げていっている。津山市の幼稚園・保育園、小学校などで広げることがほんの少ししかできてない。リズムジャンプは、ジャイアンツやベイスターズなどのキャンプでの導入や、横浜市や神戸市からは専属契約のお話もある。しかし、育ってきた津山市をリズムジャンプの町イコール津山にしていきたいためにがんばっていきたい。」という話をいただきました。

私も、子どもたちの体力や運動能力を伸ばすためにリズムジャンプは最適であり導入していきたいという思いがあり、思いが一致したため小学校等に広げていこうと考えています。

リズムジャンプの良いところは、リズム感が良くなったり、運動能力の向上、脳の活性化、集団づくりなどがあります。若い先生の研修を行ないましたが、どの子にもできて、子どもたちが積極的に活用しようとする姿がある、短時間で効果が大きい、自分の学校に持ち帰って活用していきたい、などの声をいただいており、かなりの学校で取り組んでいます。

先日、実施をしました北小学校での映像がありますのでご覧ください。(映像による説明)

## ◆市 長

学校は、子ども達が楽しく学べる場として、そして、将来への期待と夢が形成できる、そんな津山市の学校であってほしいと願っています。

学校の力をさらにレベルアップできるよう、十分な議論の上で学校力向上推進プランが策定されますよう、よろしく願いをいたします。

## 【議題(2)】

## ◆市 長

それでは、次に、議題(2)「ICT模擬授業について」ですが、初めての試みとしてICTの模擬授業を、総合教育会議にて行なうこととしています。

本日、教鞭をとっていただく先生は、学校教育課の松尾指導主査にお願いをしていますので、私たちも子どもたちが受ける授業を体験して、ICTの理解を深めていきたいと思えます。

## ●絹田学校教育部長：(事前配付資料を活用して説明)

- ・津山市のICT整備状況を資料2にて説明。

## ●学校教育課学校教育課 松尾指導主査による模擬授業

～約20分程度～

## ◆市 長

少し、機器の調子が悪いため、復旧するまで、先に議題（3）「子ども若者支援地域ネットワークについて」協議をしたいと思いますがよろしいか？

### 【議題(3)】

## ◆市 長

それでは、次に、議題（3）「子ども若者支援地域ネットワークについて」協議をしたいと思えます。生涯学習部から説明をお願いします。

### ●松尾生涯学習部長

資料3にて説明。

子ども・若者支援地域ネットワーク強化推進事業については、本年度、内閣府の認定を受けて実施。日本全国の20代の引きこもり・ニート状態にある人が1割に達しており、子ども・若者を切れ目なく支援するため、関係機関のネットワークを強化することを目的とする。

内容としては、

- ①ネットワーク体制 「子ども・若者支援地域協議会（仮称）」の整備にかかる専門家からのアドバイス
- ②支援に携わる関係者への講習
- ③支援機関マップの作成を実施
- ④引きこもり等の状態にある本人・家族・親族等が相談する場合に、ワンストップの総合相談窓口を設置

本事業は、福祉・保健医療・教育・雇用・矯正・更正保護、保健所等が連携をとって、子ども・若者支援地域協議会（仮称）を立ち上げて、円滑な社会生活を実現していこうというもの。

今年度は研修等を行い、来年度に協議会を立ち上げていく。

## ◆市 長

資料等にて、現状等の説明を受けましたが、皆様方のご意見を伺いたいと思えます。

### ◇原田教育長

部長から説明がありましたが、引きこもりやニートについては、今もこども課で保健師を中心に訪問を実施しています。また、鶴山塾により、義務教育期間（小中学校期間）は対応できてます。しかし、中学校卒業してから、あるいは高校中退者などには対応ができていない。

そこで、生涯学習部を中心に津山市でも研究を始めたところ、内閣府からお声があり、今年1

年間は研究期間としますが、引きこもり・ニート状態にある人を就労に向けて自立させていく協議会の立ち上げていきたいと考えています。こども課、社会福祉事務所、児童相談所、保健所などと手をつないで若者を元気させていきたいと教育委員会としては考えています。

#### ◇寺元教育委員

私は、津山高専に勤めていますので、義務教育より年齢が一段上がっていますが、引きこもり・ニート状態にある人については、教育組織から1歩外に出してしまうと、どこからも支援がありません。家庭では、そんな子どもがいると恥ずかしいという気持ちが先に立って、なおのこと引きこもりが進んでしまうという悪循環があり、この取組みを行うことは非常に重要だと考えています。

上限が39才までが対象ということで、津山市の対象者数は正確に把握出来てないのが現状ですが、何かの拍子で働けなくなったという人は結構いるので、支援をしながら社会の仕組みなどを理解してもらい、自立に向けていければと考えています。どういう支援をおこなうか、しっかりと研究をしていきたいと感じています。

#### ◇森教育委員

中学校を卒業して高校に行かない子が、どのような生活をしているか気になってます。協議会が立ち上がったら実態をつかむことが一番大変なことだと思います。実態をつかんで、どうアドバイスをしたら自活・自立ができるようになるのか専門家の意見等によって支援することは大事なことだと思います。いろいろ方から意見を聞いて組み立てをしながら機能する協議会を立ち上げることを期待しています。

#### ◇長江教育委員

実際に引きこもりの子どもさんを抱えるご家庭の方が、NPO 法人とかで支援する体制を作っていますが、このような協議会でさらに支援する体制を充実させていただきたいと思います。

#### ◇尾島教育委員

今、小学校ではキャリア教育、働くことを勉強しています。中学校ではインターンなどを実施して、仕事に就くということを学校では勉強するのですが、実際に社会に出てみて上手くいかないことがあって、つまづいたらどこに相談していいのかわからないことが多いんです。親が元気なうちはなんとかなるのですが、段々、年老いていくと何もできなくなることがあります。

どこにどのように相談していくか、窓口がわかるような組織をまず一番につくってほしいと思います。

縦のつながりは今までもありますが、横につながるものは少ない。横の広がりを期待しています。



◆市 長

子ども・若者支援地域協議会の事務局又は総合相談センターは教育委員会のどの部署に置くのか。

●松尾生涯学習部長

今の段階では、生涯学習課の中、育成センター若しくは鶴山塾に置きたいと考えています。基本的には育成センターでやっていく予定で準備をしています。

今後、市長部局の社会福祉事務所やこども保健部が関連しますし、市役所外のNPO団体等も絡んできます。そのことも視野に入れながら最終的に判断していきたいと考えています。

◆市 長

総合相談センターで相談を受ける人は、何か資格を持っている人なのか。

●松尾生涯学習部長

資格があればいいのですが、なくても全体の枠をコーディネートできるような人が配置できればと思っています。これからの協議になると考えています。

◆市 長

内閣府の協力を得て、今年度（平成29年度）から実施するのか？

●松尾生涯学習部長

そのとおりです。今のところまったく行政の手が入っていない領域になります。個々の案件によっては支援を受けている人もいると思いますが、行政に関わっていない人には支援の輪が届いていない。その部分をなんとかしたいということで、これを起ち上げるとご理解いただければと思います。

◆市 長

ありがとうございました。

今後、津山市子ども・若者支援地域協議会（仮称）を設置していく予定ですが、様々な機関がそれぞれの特色や専門性を生かして支援を行えるように、岡山県や関係団体と協議調整を行いながら進めていただきますようお願いをいたします。

●学校教育部学校教育課 松尾指導主査による模擬授業

※機器の調子が戻ったので、ICT授業を再開（10分程度）

## ◆市 長

松尾先生ありがとうございました。ICTの授業を受けて、皆様方からご意見をいただきたいと思いをします。

### ◇尾島教育委員

今、皆さんがICT授業を受けて感じられたと思いますがやる気が出ます。子ども達のやる気を出すことは非常に重要なことだと思います。また、先生がICTに触れることで先生がレベルアップします。先生の教師力アップにもつながってくるし、楽しくやれば、子どもたちはもっともっとやる気が出て来て、成績があがる？と思います。学校に行きたくてしょうがないと思わせてほしいです。今後の授業がとっても楽しみです。

### ◇寺元教育委員

ICTは、もともと Information and Communication Technology の略ですが、必ずさっきのように、いつも(I)ちょっと(C)トラブル(T)がつきものです。今回は会議室ということで環境が常設でないところで行ったためにトラブルがありました。教室ではいつも同じ環境なので、それほどトラブルがあるとは思えませんが、必ずちょっとしたトラブルはあります。その時に、上手く時間をつないだり、早くリカバリーしたり、ここは経験だと思います。トラブルがあった時こそコミュニケーション能力が試されるので、慌てずに落ち着いてやることが大切になってきます。そのために失敗の経験を積み重ねることが大事だと思いますし、先生方では解決しないトラブルがあった時には教育委員会が支援を行っていく必要があると思います。

それからこれは懸念ですが、ICTを使った授業は非常に楽しいので、勉強した気にはなりますが、時間が経ってみると意外と忘れていくことが多いです。そのために、ちょっとした小話等を入れてやるとそれが非常に記憶に残ることがあります。いろいろなつながりを小話や広い視野を入れてあげると、子どもたちはもっと先に進めると思います。そういったところを先生には勉強してもらいたいと思います。

### ◇森教育委員

子ども達はゲーム感覚で楽しいので、休み時間が終わったら、すぐに教室に入るようになればと思います。繰り返し行うことで、頭の中になんか残ってくるのではないかと思います。

今回、授業を見せてもらって、先生方は覚えるまで大変だと思いますが、子どもたちは楽しくて授業に集中してくれるのではないかと思います。

#### ◇長江教育委員

ICTについては、使い方によって子どもたちが変わってくるのかな、と思います。ICTばかりではいけない授業もあるし、ICTでさらに楽しくできる授業もあります。授業計画や研修等で経験を積んでもらって、ICTを導入してよかったと言われるようにしてもらいたいです。

現実体験も非常に重要だと思いますので、そのあたりの時間が削られないように上手くバランスをとりながら授業をしてほしいと思います。

#### ◇原田教育長

(ICTは)便利な道具です。しかし、新しいものを取り入れようとしたら最初はなんでも時間がかかります。段々慣れていくと子どもたちも喜んで楽しんで勉強に取りかかれると思います。その子どもたちの笑顔や充実感を見ていると教師は負担感はなくなってくるし、時間短縮にもつながってくると思います。ICTの授業でもありましたが、体の中や腸を伸ばしてみたりすることはICTの中でしか出来ないことなので、実際の体験とICTを上手く組み合わせながら進めていただきたいと思います。多額の予算を投入していただいていますので、その予算を十分に活用していきたいと思います。

#### ◆市 長

ICT機器を導入するに際して、各学校の先生の意見などを確認しているか？また、その対策はどのようにしていく予定か？

#### ●影山学校教育課長

先生方は、今回のICT機器の導入されるというのは非常に好評で前向きにとらえていただいています。(ICTの)授業をどのように楽しく展開していくか、ということをと課題としてとらえて、わかりやすい授業をつくっていこうと意欲的に取り組んでおります。

ただ、さきほど委員さんのご意見でもありましたが、今まで機器に接する機会が少なかった先生方にとって、負担感がどのくらいあるのだろうか、そのあたりの準備をどのようにしていくか、教育委員会も不安があるのが正直なところです。まずは、校内研修等で機器に触って慣れていただき、失敗もしながら研修を行っていきたいと思っています。

#### ◆市 長

導入の完了は何年度になるか？

## ●絹田学校教育課長

導入の完了は31年度となっています。新しい学習要領が33年度となっていますので、それに間に合うように研修も行っていきたくと思っています。

## ◆市長

松尾先生、本日は大変ありがとうございました。

いろいろな協議・調整を行いました。これからの人口減少社会の中で、教育は、施策の中核となってきます。私たちが連携を深め、協力しあいながら、津山市の教育を推進していくことが大切であり、また、何かございましたら、この総合教育会議の場で、皆さまと協議してまいりたいと思います。

引き続き、平成29年度の教育施策の推進にご尽力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上で、議題については終了いたしますので、進行を総合企画部長にお返しします。

## 4. その他（司会：玉置部長）

### ★玉置総合企画部長

それでは「4. その他」ですが、何かご意見がございますか。

（特になし）

## 5. 閉会

### ★玉置総合企画部長

本日は、各協議事項につきまして協議・調整をいただきありがとうございました。それでは、総合教育会議の閉会にあたり、寺元教育委員から、閉会のご挨拶をお願いします。

### ◇寺元教育委員 ～閉会あいさつ～

本日は、お忙しいところ、長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。また、松尾先生には模擬授業ありがとうございました。現場での授業がどのようになるのかよくわかったような気がします。昨日、中学校に行きましたが、新しいエアコンが設置されているのを眺めて、いよいよ学校にエアコンが導入されるなと感じました。耐震・更新工事、エアコン、そして今回のICT整備と、津山市の教育環境整備が、着実な歩みを進めていると感じています。

今後とも、市長さんをはじめ、市議会や市民の皆さまと一致団結して津山市の教育を進めてまい

りたいと考えていますので、御協力、お力添えを賜りますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが、閉会の挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

**★玉置総合企画部長**

それでは、これをもって、平成 29 年度第 1 回津山市総合教育会議を閉会といたします。  
ありがとうございました。

(終 了)